［診療部］

臨床研修医

臨床研修委員長・臨床研修プログラム責任者 麻酔科　岡原　正治

1 特に力を入れたこと

2025年度も2021年度から引き続き、研修ガイドライン準拠の体制維持・強化に努めた。その中でも特に重要な取り組みとして「初期臨床研修実施基本規程」の策定を挙げたい。これまでの委員会審議内容や研修医に対する「研修の手引き」の形で整備してきた各種ルールの根幹となる考えを、正式な規程として文書化したものである。ガイドライン逸脱防止のための具体的な規定や外部監査対応のための手続きを明文化したことで、個々の担当者の判断や経験に依存していた運営から、病院として組織的にガイドラインに準拠できる体制へと移行する基盤を整える試みである。逸脱行為への対応手続きを規程として明確にしたことは、指導担当医・研修医双方に対するルールの周知徹底にも寄与するものと考える。

次に、長年の懸案事項であった「指導担当医への案内」を作成した。「研修の手引き」は研修医向けの整備を優先して進めてきたが、指導する立場の医師に向けた体系的な資料が整理されていなかった。新たに入職する指導担当医はもとより、既存の指導担当医にとっても当院における指導上の手掛かりとなるよう、ガイドライン準拠の指導方針・評価方法・EPOCの活用法・医師の働き方改革への対応などを盛り込んだ内容とした。作成後は委員会および医局会での周知を行うとともに、院内情報共有ホームページへ掲載しいつでも閲覧できる環境を整えた。上記の基本規程と合わせて、研修プログラムの運営基盤が組織としてより一層充実したと考えている。

さらに、採用試験への基本的臨床能力評価試験（CBT）の結果活用を開始した。CBT成績は一般に医師国家試験合格と強い相関関係があることが知られており、採用選考における客観的指標のひとつとして位置づけることとした。

2 今後の課題

今年度策定した「初期臨床研修実施基本規程」については、今後の運用を通じて実態との整合性を検証し、必要に応じて改訂を重ねていく必要がある。規程は策定することが目的ではなく、運用実績の積み重ねによって当院の研修プログラムの制度的信頼性が高まるものであり、研修管理委員会での定期的な確認を継続していきたい。

「指導担当医への案内」については、入職時の説明・配布を予定しており、指導担当医が当院の研修制度を早期に理解できる体制を整えていく。また、十分に情報が共有されていないと思われる指導担当医に対しては、担当事務や医局秘書の協力のもと個別の説明を随時行う方針としている。今後は指導担当医からのフィードバックを収集し、実際の指導現場での使いやすさや内容の過不足を確認したうえで継続的な改善を図りたい。

採用試験におけるCBT結果の活用については初年度であり、応募者数への影響を注視しながら運用上の課題を検証していく必要がある。CBT結果はあくまで複数ある選考要素のひとつであり、その後の学業成績向上や直近の模試結果なども選考の判断材料であることを丁寧に受験生には説明していきたい。様々な背景を持つ学生が応募してくれるような工夫が引き続き必要だと考えている。また、CBT結果は医学生段階の指標であることを踏まえ、当院が義務付けている基本臨床能力試験との関連性を含め、医学生から初期研修医、そしてその後のキャリアにわたる能力の推移を継続的に把握できる指標としての活用が今後の検討課題となる。客観的データの蓄積を通じて、研修プログラムの効果測定や個々の研修医への適切な支援につなげていきたい。

あわせて、ガイドライン準拠に必要な各種記録を研修医自身および管理者側がより負担なく残せるシステムの構築を進めたい。QRコードを活用した記録方法など新たな手法の導入も検討しており、記録業務の効率化と正確性の向上を両立できる体制を目指したい。

引き続き当院の研修プログラムの質的向上と適正運営に向けた取り組みを継続していく。

●研修プログラムの一例

1年次	4月～6月	内科（総合内科）	2年次	5月	選択（泌尿器科）
	7月	麻酔科		6月	協力施設（精神科）
	8月～9月	内科（循環器内科）		7月	協力施設（産婦人科）
	10月～11月	外科		8月	内科（総合内科＋一般外来）
	12月～1月	内科（消化器内科）		9月	協力施設（小児科）
	2月	選択（整形外科）		10月	協力施設（地域医療）
	3月	選択（放射線科）		11月～12月	選択（救急）
	4月	選択（脳神経外科）		1月～3月	選択（整形外科）

●協力施設

葛が谷つばさクリニック（地域医療）
レストア川崎（地域医療）
横浜旭中央総合病院（小児科）
昭和大学横浜市北部病院（産婦人科）
江田記念病院（精神科）

2025年度 初期臨床研修医

研修状況および今後の展望

江頭　勇樹

初期臨床研修医としての一年目を終え、日々の診療を通じて多くの学びと課題を実感した一年でした。入職当初は不安や緊張も大きく、目の前の業務に精一杯でしたが、各科をローテートする中で、診療の基本姿勢や患者さまとの向き合い方、チーム医療の大切さを学ぶことができました。上級医の先生方や看護師、コメディカルの皆様のご指導のもと、様々な診療科での研修を通して医師としての自覚が芽生え、学生の頃と大きく考え方が変わりました。その一方で、実際の診療では自分の知識不足や判断力の未熟さを痛感する場面も多く、今後さらに学びを深めていく必要性を強く感じました。二年目は必修である小児科、産婦人科、精神科などをローテートする予定です。いずれも非常に重要な診療科であり、この機会を大切にしながら、主体的に学び、実りある研修にしていきたいと考えています。今後関わるスタッフの皆様、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

近藤　直大

入職して一年が経ちました。上級医の先生方・研修医の先輩方の温かいご指導、コメディカルの皆様にも恵まれ、多くの学びを得る一年となりました。全ての病院関係者の皆様に深く感謝申し上げます。入職したての頃は経験すること全てが新鮮で興味深かったですが、さまざまな知識を学べば学ぶほど、手技を経験すればするほど、その奥深さに感銘を受け、自分の知識・技量不足を実感する毎日で、自分は果たして上級医の先生方のようになれるのだろうかという苦悩に苛まれる日々でした。そんな中でも温かく的確なご指導をしてくださる諸先生方のお陰で、入職した頃と比べると、手技・知識そして精神面において一歩一歩着実な成長を実感できている自分もいます。まだまだ理想とする医師像には程遠く、社会人としても未熟ではございますが、自分なりに真摯に日々の診療に向き合っていく所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

舘林 俊太朗

菊名記念病院に研修医として入職させていただいてから一年が経ちました。研修医の先輩方を含めた先生方や、コメディカルの方々にも恵まれ、この一年で多くの成長や学びを得る事ができました。その一方、この一年の自分の研修に対する姿勢を振り返ると、まだまだ積極性が足りていなかったと感じております。二年目は外部研修や自由選択期間が増えるので、一年次では経験できなかった疾患・手技などにも触れ、医師としての基盤を築いていきたいと思っています。一年目の反省を活かし、より積極的に研修に励み、自分の理想の医師像に少しでも近づけるように残り一年を過ごしていきたいと考えております。まだまだ医師としても社会人としても未熟であり、周りの方々に日々ご迷惑をおかけしますが、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

渡部　由佳

菊名記念病院での研修一年目を終え、医師としての第一歩を振り返ると、急性期医療の最前線という厳しさの中にも、病院全体の温かさに支えられた充実した日々であったと深く実感しております。当初は、患者さまを前に自身の未熟さに戸惑うこともありましたが、指導医の先生方との距離が近く、きめ細やかな助言をいただける環境が、何よりの成長の糧となりました。また、日々の業務において、看護師、薬剤師、技師といった多職種の皆様からいただいたサポートは、今の私にとって欠かせない財産です。職種を越えた連携の中で、一人の患者さまを多面的に支えるチーム医療の重要性を肌で感じることができました。二年目を迎えるにあたり、技術の向上はもちろんのこと、周囲から信頼され、安心感を与えられる医師となれるよう、より一層の責任感を持って誠実に診療に邁進する所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

研修医　医局朝会発表一覧（2025年４月～2026年３月）

※グレー着色のセル‥各学会など院外で発表した演題

発表者	No.	発表日時	タイトル
飯塚　達也	①	2025年４月26日	若年男性の脳梗塞の原因が梅毒による血管炎であった一例
	②	2025年６月21日	悪性リンパ管腫ではなく多発GISTであった一例
	③	2025年８月２日	典型的なたこつぼ型心筋症の一例
	④	2025年11月29日	妊婦におけるA群β溶連菌（GAS）感染症の劇症化：STSSについて
	⑤	2026年１月31日	結核稼働病床を有さない当院における排菌結核患者への対応
角田　美友	①	2025年５月10日	魚骨穿通による膿瘍形成を伴った上行結腸癌の一例
	②	2025年７月５日	開頭血腫除去術後に遠隔小脳出血を起こした一例
	③	2025年９月６日	再発性大腸憩室炎の一例
	④	2025年12月20日	尿道異物による膀胱穿孔の一例
	⑤	2026年１月17日	腹痛を主訴に救急外来を受診し、脾梗塞と診断した一例
長谷川　聖	①	2025年４月12日	緩徐進行１型糖尿病の１例
	②	2025年５月17日	急性発症の免疫性血小板減少症（ITP）の１例
	③	2025年11月22日	頸部巻絡・臍帯過捻転の胎児リスクに関して
	④	2026年１月10日	脳性麻痺を有する小児のインフルエンザ感染
	⑤	2026年２月21日	第1腰椎圧迫骨折に対して経皮的椎体形成術施行後に隣接椎体障害を来した1例
保住　優花	①	2025年４月19日	Mirizzi症候群、Lemmel症候群
	②	2025年６月28日	神経発達症と精神疾患
	③	2025年７月26日	高齢統合失調症患者の治療
	④	2025年11月１日	印環細胞を有する卵巣腫瘍の鑑別
	⑤	2026年１月24日	心不全患者の緩和ケア
江頭　勇樹	①	2025年６月14日	急性胆嚢炎に対する経皮経肝胆嚢ドレナージ（PTGBD）と腹腔鏡下胆嚢摘出術の適応
	②	2025年８月16日	溶血性連鎖球菌性咽頭炎の一例
	③	2025年10月25日	肝障害を伴うデング熱の１例
	④	2025年12月13日	右室梗塞を伴う非ST上昇型心筋梗塞の一例
	⑤	2026年２月28日	非還納性鼠径部ヘルニアの２症例
近藤　直大	①	2025年５月24日	感冒様症状から急速に敗血症性ショックに至った侵襲性肺炎球菌感染症の一例
	②	2025年７月12日	脾梗塞を合併したEpstein-Barr Virusによる伝染性単核球症の症例
	③	2025年８月23日	CO_2ナルコーシスをきたしたCOPD急性増悪の一例
	④	2025年11月８日	発作性房室ブロックに対してリードレスペースメーカーを植え込んだ一例
	⑤	2025年12月６日	超高齢者103歳の絞扼性腸閉塞に対して緊急手術を行った一例
	⑥	2026年３月７日	著明な右心負荷所見から肺塞栓症を診断し得た一例
舘林 俊太朗	①	2025年５月31日	急性非代償性心不全を呈したHFrEF患者に対して至適薬物療法を行った一例
	②	2025年７月19日	Meckel憩室穿通を呈した患者に対して腹腔鏡下Meckel憩室切除術を行った一例
	③	2025年10月11日	重症急性膵炎患者に対して適切な補液量で加療を行った一例
	④	2025年11月15日	服薬アドヒアランス不良で発症した糖尿病性ケトアシドーシスの一例
	⑤	2026年２月７日	食思不振の原因精査で入院中低Ca血症、低P血症が判明した一例
	⑥	2026年３月21日	32歳女性の血尿を契機に発見された膀胱癌の１例
渡部　由佳	①	2025年６月７日	長期5-ASA管理中に再燃し、ステロイドで改善した潰瘍性大腸炎の一例
	②	2025年８月９日	β遮断薬服用後、急性非代償性心不全をきたした大動脈弁狭窄症の一例
	③	2025年10月18日	腸閉塞を契機に小腸腫瘍が発見され肺癌の小腸転移が疑われた一例
	④	2025年12月27日	経直腸的前立腺生検施行後敗血症性ショックにより死亡した一例
	⑤	2026年２月14日	上部消化管出血疑いを背景に低ナトリウム血症および横紋筋融解症を発症した一例
	⑥	2026年３月28日	糖尿病性足潰瘍に続発した下腿蜂窩織炎の一例